

令和6年度事業報告書

ごあいさつ

日本は急速に進行する高齢化社会の中で、様々な問題に直面しています。かねてより2025年問題として大きな課題とされてきた介護を担う人材の確保はいよいよ厳しく、その不足が深刻な社会問題化し、介護業界全体の問題解決の糸口は全く見えていません。さらに、特別養護老人ホームフローラ田無、老人保健施設ハートフル田無については、新型コロナウイルス感染症をはじめとする様々な感染症の影響を受け、その対応に追われる日々が続いています。これに加えて、刻々と変化する社会情勢により米をはじめとする諸物価が高騰し、経営を継続することがますます困難になっています。

社会福祉法人東京聖新会では、こうした厳しい状況の中で健全な経営収支を目指し、様々な改善策を講じてまいりました。令和6年には、特養の定員改定をはじめとして老人保健施設のベッド数の変更(70床→55床)や通所リハビリ稼働の充実を進めました。

また、物価高騰対応として居住費や食費の見直しを行うとともに適正な人員配置と人員確保(外国人登用含む)、そして優先順位に配慮し、必要な修繕修理を行っております。西東京市の事業である「短期集中予防通所型サービス」(通所C)を継続受託しているだけでなく、毎朝、リハビリマシン無料開放(通称・朝活)の継続実施を進める一方、フローラ田無向台町包括支援センターを軸とした地域活動では、東京聖新会が一体となり、法人全体で「あおぞら食堂」「あおぞら保健室」開催を継続しております。このほか青少年健全育成向台けやき会等とボランティア協力の体制にあり、地域の活性化を促進しています。これらの取り組みは、東京聖新会の理念に基づいた持続可能な法人経営を行うための重要なステップであると考えております。

本事業報告書では、各部門より具体的な成果を報告し、昨年度の取り組みがどのように地域貢献に繋がり、健全に運営がなされたかをお示しいたします。ご熟読いただき、東京聖新会が抱えている課題に対するご理解と、さらなるご協力を賜りますことを心よりお願いを申し上げます。

社会福祉法人 東京聖新会【組織図】

